

しよいん 《書院》

書院は、高梨家の最も格式の高い客間である。江戸時代には幕府代官の応接にも使用された。

文化3年(1806)の棟札が残されていたが、建築様式を見るとさらに50年ほど遡った宝暦年間頃の築と推定される。

この書院は“お救^{たす}け普^ぶ請^{しん}”で建てられていると言われ、必要以上に手間をかけた造りである。一例を挙げると、上の間・
中^{なか}の間^しの天井板には^が歯^か嚙^まみが施されている。板がばたつかない工夫である。明治に入り、草葺^ふきから瓦^かに葺^かき替え、
桁^{けた}を出し、ガラス戸を入れているが、
一枚も割れることなく現在も当時の手漉^かきガラスが残されている。